

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 29 年 3 月 16 日 (2017.3.16)

【公表番号】特表 2016-531452 (P2016-531452A)
 【公表日】平成 28 年 10 月 6 日 (2016.10.6)
 【年通号数】公開・登録公報 2016-058
 【出願番号】特願 2016-509190 (P2016-509190)
 【国際特許分類】

H 0 4 B 10/079 (2013.01)

H 0 4 B 10/572 (2013.01)

【F I】

H 0 4 B 9/00 1 7 9

H 0 4 B 9/00 5 7 2

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成 29 年 2 月 9 日 (2017.2.9)
 【誤訳訂正 1】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 9 9
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 9 9】

一実施形態によれば、そのような情報を決定するために、第 2 のデバイスは、シンボルの持続時間中の複数の時点で、第 1 のデバイスから光バンドパスフィルタを介して第 2 のデバイスによって受信された光信号の信号強度の測定値を得る。これは、第 2 のデバイスが、シンボルに関して、異なる時点で信号強度を測定することを意味する。次いで、第 2 のデバイスは、前記測定値を表す情報を監視デバイスに送信する。

【誤訳訂正 2】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 1 0 0
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 1 0 0】

別の実施形態によれば、そのような情報を決定するために、第 2 のデバイスは、シンボルの持続時間中の複数の時点で、第 1 のデバイスから光バンドパスフィルタを介して第 2 のデバイスによって受信された光信号の信号強度の測定値を得る。次いで、第 2 のデバイスは、信号強度の測定中に局所的極値または変曲点を決定し、前記局所的極値または変曲点を表す情報を監視デバイスに送信する。そのような局所極値に関する詳細については図 3 を参照されたい。信号時間形状におけるそのような局所極値または変曲点は、例えば信号時間形状の導関数または信号時間形状の二次導関数に基づいて決定することができる。

【誤訳訂正 3】
 【訂正対象書類名】特許請求の範囲
 【訂正対象項目名】請求項 6
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【請求項 6】

前記離調レベルを表す前記情報を決定するために、監視デバイスが、
前記第 1 のデバイスから前記光バンドパスフィルタを介して前記第 2 のデバイスによっ

て受信された光信号のシンボルに対応する信号時間形状を表す情報を、得るステップと、
前記信号時間形状を表す前記得られた情報を、1組の所定の信号時間形状を表す情報と
比較するステップであって、各所定の信号時間形状が、前記光信号の前記搬送波波長と前
記光バンドパスフィルタの前記公称波長との間のそれぞれの離調レベルを表すステップと
を行うことを特徴とする請求項1～4のいずれか一項に記載の方法。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項7】

前記離調レベルを表す前記情報を決定するために、前記監視デバイスが、前記第1のデ
バイスから前記光バンドパスフィルタを介して前記第2のデバイスによって受信された光
信号の連続するシンボル間の時間ドリフトを表す情報を、得ることを特徴とする請求項1
～4のいずれか一項に記載の方法。